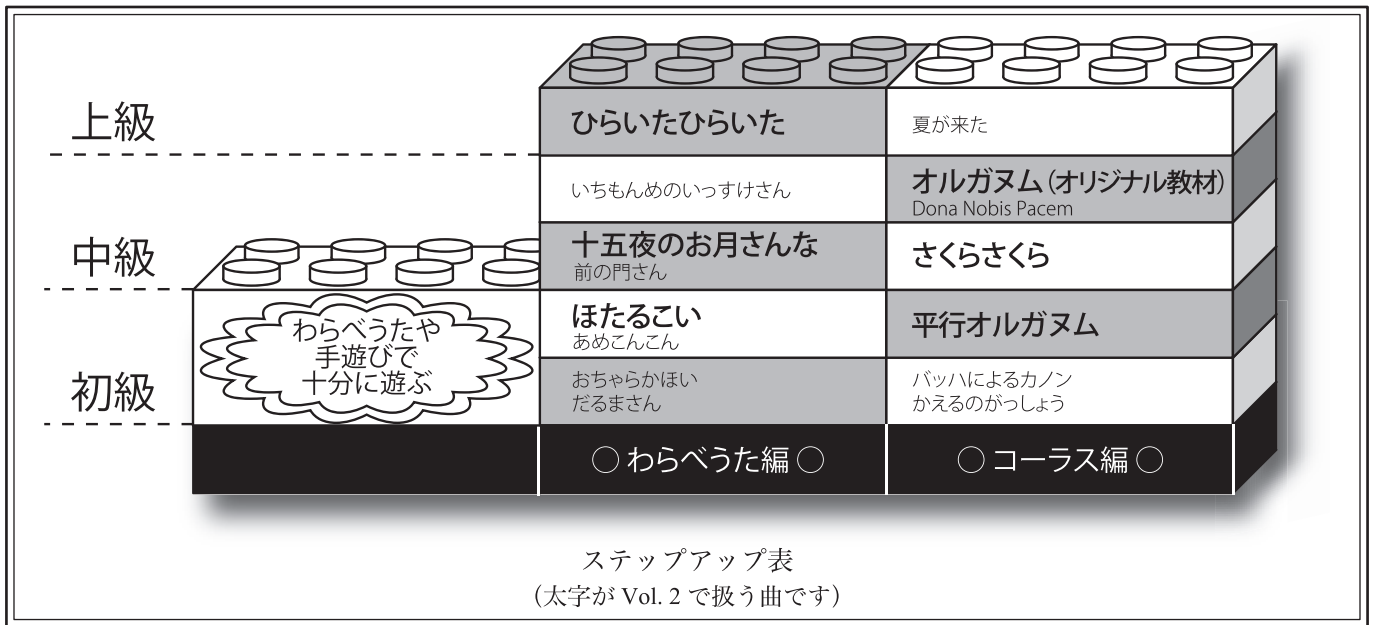


教材の使い方



- ▼ 初級から取り組むことをおすすめします。学年・校種等にこだわることはありません。
- ▼ 先生や児童、生徒のレベルに応じて、曲や STEP を選択してください。無理をする必要はまったくありません。(例：パートを減らす、オスティナートをつけない)
- ▼ わらべうた編・コーラス編のどちらも並行して行うことで、より効果的にステップアップできます。
- ▼ 映像で演奏しているテンポは少し速い場合があります。歌う側の様子に応じて調節してください。
- ▼ Vol. 2 で取り上げている曲を扱う前に、かならず Vol. 1 をやってください。そうすると、より Vol. 2 の教材が意味のあるものとなります。
- ▼ Vol. 1、2 で紹介したすべてのわらべうたを、パートナーソングとして同時に重ねることができます。

Vol. 1 からのステップアップ

- 《CHECK》
- ① 声の種類を使い分けられるようになるろう
 - ② ハーモニーを作る楽しさを感じよう

Vol. 1 では、「カノン」を活動の中心に置きながら、「音程感覚」の育成を目指しました。Vol. 2 では、引き続き音程感覚を養いながら、さらにステップアップできるような教材を提案しています。まず、いろいろな声の出し方について、「地声」と「裏声」を中心に学んでいきます。授業においても、「きれいな声で歌わせたい」、「裏声にすると、元気がなくなってしまう」、「裏声がかうまく出せない子どもがいる」など、「地声」と「裏声」の使い方について悩まれる先生もおられるのではないのでしょうか。詳しくは、ワンポイントアドバイス (13 ページ) をお読み下さい。

さらに、Vol. 2 では、ハーモニーを作るトレーニングとして、「オルガナム」を取り入れました。これは、西洋音楽史の中で、カノンとともに重要となる初期の音楽形式です。西洋音楽の発展の中で生まれ、工夫されたこれらの様式をコーラスのトレーニングの中に取り入れることで、より効率よくハーモニーを作る技術を身に付けることができ、歌うことがより楽しくなるでしょう。